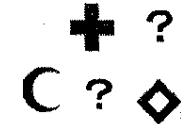


日本赤十字社について



- 「赤十字」の名前はみんな知っている
「日本赤十字社」の認知度 98.9%
- 「赤十字」が何なのか、何をしているかは、
あまり良く知られていない…
 - ・ イメージ ⇒ 献血、病院、人道…
 - ・ 国の機関？外郭団体？



日本赤十字社の活動

■ 災害救護活動

災害現場での
医療救護や救護物資の配布。



■ 赤十字講習

病気やけがの予防と
とっさの時の手当など、
健康で安全な生活。



■ 医療事業

地域医療への貢献。
災害などに備えて医師、
看護師を訓練。



■ 看護師等の養成

救護や医療にあたる
看護師などを養成。



■ 青少年赤十字

学校を通じて
いのちと健康を大切にする
意識や思いやりの心を育成。



赤十字活動は、みなさまからいただいた
活動資金で支えられています。

■ 国際活動

世界中の紛争や
災害の被災者に支援の手を。



■ 血液事業

あなたからの
温かい贈りもの、献血。



■ 赤十字ボランティア

赤十字を支え合う
ボランティア。助け合う心。



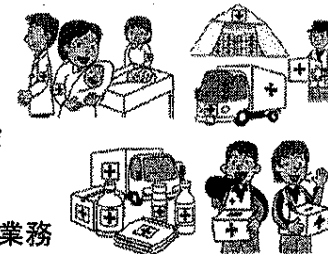
■ 社会福祉

こどもやお年寄り、
障害のある人のための
社会福祉施設の運営。



国内災害救護活動

- 医療救護
- 救援物資の備蓄と配分
- 災害時の血液製剤の供給
- 義援金の受付と配分
- その他災害救護に必要な業務




発災後、人々のいのちを守り、
苦痛を軽減することに貢献しています

+ 日本赤十字社
NIPPON KOKU KAKUSHI KA

日本赤十字社の防災への取り組み

- 自分自身と家族のいのちを守る(自助)
- 自分自身と家族の安全が確保できたら、率先して他の人を助ける等、地域の安全に貢献する(共助)



**地域に住む一人ひとりが
「自助」「共助」の力を高める
お手伝いをする**

5


+ 日本赤十字社
NIPPON KOKU KAKUSHI KA

ミッションステートメント

<p style="text-align: center;">日本赤十字社の使命</p> <p style="text-align: center;">わたしたちは、 苦しんでいる人を救いたいという思いを胸にし、 いかなる状況下でも、 人間のいのちと健康、尊厳を守ります。</p>	<p>日本赤十字社の使命</p>
<p style="text-align: center;">わたしたちの基本原則</p> <p style="text-align: center;"><small>わたしたちは、災害時の日本赤十字社及びその活動に賛同したパートナーです。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>1. 命：人命のいのちを尊重し、命を守るための、災害時の緊急支援を優先します。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>2. 平：いかなる状況下でも、人命のいのちを尊重し、人命を守ります。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>3. 立：すべての人命を尊重し、災害時の緊急支援を優先し、人命を守ります。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>4. 誠：災害時の緊急支援の人的資源を効率的に活用し、命を守ります。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>5. 信：信頼を築き、人命を守るための、災害時の緊急支援を優先します。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>6. 一：信頼を築き、人命を守るための、災害時の緊急支援を優先します。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>7. 共：災害時の緊急支援を優先し、人命を守るための、災害時の緊急支援を優先します。</small></p>	<p>わたしたちの基本原則</p>
<p style="text-align: center;">わたしたちの決意</p> <p style="text-align: center;"><small>わたしたちは、災害時の緊急支援を優先し、人命を守るための、災害時の緊急支援を優先します。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>わたしたちの決意、活動の中心は、人命を守るための、災害時の緊急支援を優先します。</small></p> <p style="text-align: center;"><small>わたしたちの決意、活動の中心は、人命を守るための、災害時の緊急支援を優先します。</small></p>	<p>わたしたちの決意</p>

6

災害への備え



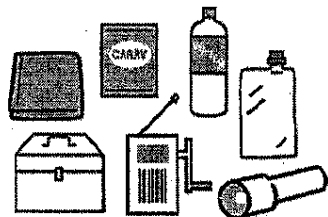
日本赤十字社
NIPPON KOKU KAKUSHI KA

+ 日本赤十字社
NIPPON KOKU KAKUSHI KA

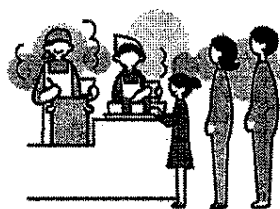
セミナーの目的

災害に備えるために

「自助」



「共助」



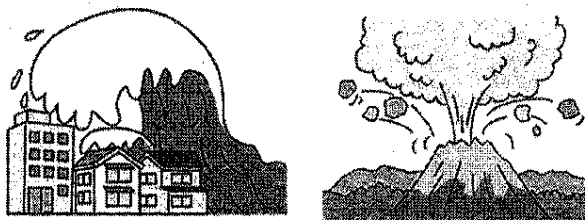
- 災害発生時に「いのちを守る」
- 災害発生後の「暮らしをつなぐ」

内容

- 大雨・土砂災害からいのちを守る
- 暮らしをつなぐ
- まとめ

いのちを脅かす様々な事象(災害)

地震、津波、大雨、洪水、がけ崩れ、竜巻、豪雪、噴火、大規模な火事 等



過去の事例を超える事態への対応

- 今後発生が予測される大規模地震(例)

	30年以内の発生確率	死者	避難者数
南海トラフ地震	70~80%程度	約23万1千人	約500万人
首都直下地震	70%程度	約2万3千人	約720万人

- 気候の変化による大雨・土砂災害の増加

局地的大雨の頻発

猛烈な台風の発生

私たち自身が考え、行動することが重要

大雨・土砂災害からいのちを守る



大雨・土砂災害からいのちを守るために

早めに安全な場所に避難する

- 1 住んでいる地域を知る
- 2 情報を理解し、活用する
- 3 隣近所の日頃からの付き合い

大雨による被害

- 洪水害
- 浸水害
- 土砂災害



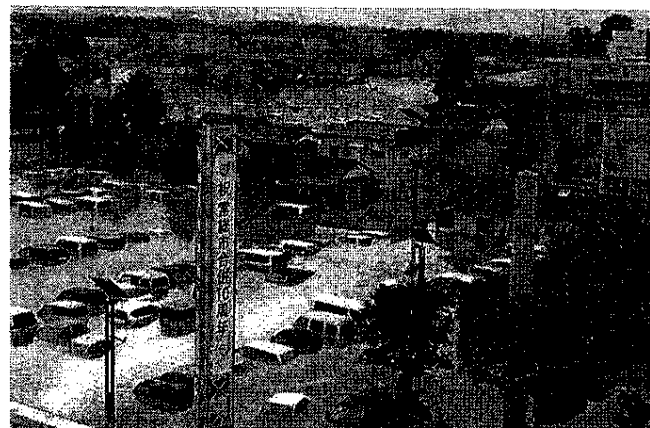
がけ崩れ(斜面崩壊)

土石流

地すべり



大雨による被害



+ 日本赤十字社
NIPPON KOKU KAIJIKU

アンダーパスの危険性



出典: 一般社団法人 日本自動車連盟 写真: 静岡市提供 (https://1efovent.jp/area/chubu/shibuyaka_new_1/1705_22_005_9.html) 17

+ 日本赤十字社
NIPPON KOKU KAIJIKU

大雨による土砂災害(がけ崩れ)



出典: 広島県砂防課 ~土砂災害 啓発・伝承支援制度~ 土砂災害啓発パネル(大人用)
(<http://www.sabcpref.hiroshima.lg.jp/densyou/index.html>) 18

+ 日本赤十字社
NIPPON KOKU KAIJIKU

大雨による土砂災害(土石流)



出典: 広島県砂防課 ~土砂災害 啓発・伝承支援制度~ 土砂災害啓発パネル(大人用)
(<http://www.sabcpref.hiroshima.lg.jp/densyou/index.html>) 19

+ 日本赤十字社
NIPPON KOKU KAIJIKU

大雨による土砂災害(地すべり)



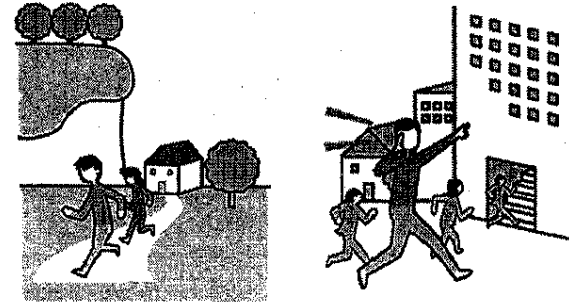
出典: 広島県砂防課 ~土砂災害 啓発・伝承支援制度~ 土砂災害啓発パネル(大人用)
(<http://www.sabcpref.hiroshima.lg.jp/densyou/index.html>) 20

平成21年中国・九州北部豪雨 (山口県宇部市住民の被災体験)

- お屋に「さあご飯を食べよう」って言っていたら、山の方でゴーンゴーンと音がした。「なんでだろう？」と思って見たら、まさに山が崩れてきて、土石流がダーンと押し寄せてきたそうです。
- ご主人は、奥さんと一緒に道のない裏山に逃げたというので、「なんでそっちに逃げたんですか」と聞いたら、「家を建てた時に、何かあったら裏山に逃げる」と夫婦で話し合っていたとのこと。
- 道端に車を置いていたが、そこは土石流の流れる方向にあったので、そちらに逃げていたら絶対命はなかったと思いますよ。

出典：内閣府「一日前プロジェクト」 21

大雨・土砂災害からいのちを守るために 早めに安全な場所に避難する



22

住んでいる地域を知る

- ハザードマップ(防災マップ)で確認する
 - 被災想定区域
 - 避難場所
 - 防災関連施設
- まち歩きをする
 - 身近にある安全な場所



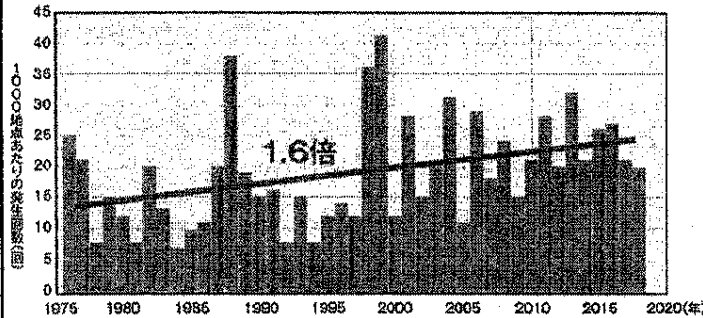
23

情報を理解し活用する

- 気象に関する情報
- 避難に関する情報
- 五感で感じる土砂災害の情報
(前兆現象)

24

1時間降水量80mm以上の年間発生回数



出典:気象庁ホームページ「大雨や猛暑など(極端現象)のこれまでの変化」を加工して作成
 ※: 長期変化傾向(統計期間の始めと直近の各10年間の平均年間発生回数を比べた増加割合)

大雨・土砂災害からいのちを守るために

早めに安全な場所に避難する

- 1 住んでいる地域を知る
- 2 情報を理解し、活用する
- 3 隣近所の日頃からの付き合い

暮らしをつなぐ








災害発生から1週間位まで

- いのちを救う活動が重要
- 安否確認が一段落
- 被害の全体像が段々と分かってくる
- 水道・電気・ガス(ライフライン)が停止
- 安全な場所での一時避難(避難所、親戚宅等)
- 被災者同士による協力

+ 日本赤十字社
www.ncc.or.jp

家族や知人の安否確認

電話は、発信や接続が制限される場合があります。
家族や知人等との連絡方法を予め決めておきましょう。

ホワイトボード 紙 公衆電話 携帯電話 インターネット

災害用ダイヤル「171」の使い方

「171」に電話をかけ、ガイダンスにしたがって必要事項を入力します。
(携帯電話などからも利用できます。)

171

→ 発信する時

1


→ 被災地の人の電話番号

→

2

→

メッセージを
届着・再送する




29

+ 日本赤十字社
www.ncc.or.jp

これまでの日常とは全く異なる生活

- 住家・家財に大きな被害
- 水道・電気・ガス(ライフライン)が停止
- 不自由な避難生活



皆で協力し、助け合うことが大切

30

+ 日本赤十字社
www.ncc.or.jp

隣近所等との日頃のお付き合い

災害などの非常時に助け合うことができる
共助の「核」

1週間水が出なくて洗濯がたいへんだったが、近所の人が「実家は水が出た」といって洗濯機で洗ってくれた。
(平成19年新潟県中越沖地震)

断水している地域には水を配りながら安否確認をした。孤立感が深まる中、自分たちのことを認識してくれていることが大きな安堵感に繋がったのでは。
(平成22年山陰地方の大雪)

出典:内閣府「一日前プロジェクト」

31

+ 日本赤十字社
www.ncc.or.jp

東日本大震災 (福島県新地町の社協職員の実験談)

- 地域の炊き出し班長との使命感があったので、自宅は地震でメチャメチャだったが炊き出しを決行した。
- 道具も材料もなかったが、誰ともなく協力者が現れた。
- 1日目は避難所分の炊き出しを、2日目以降は多めに作って自宅にいる人達にも届けた。配達は集落ごとに担当してもらった。
- 防災訓練などの日頃の活動を通じ、「この人だったらこういうことができるのではないか」となんとなく把握しておいたのが良かったのかもしれない。
- 地域の人たちに譲り合いや助け合いの気持ちがあったことが一番の幸이었다。

出典:内閣府「一日前プロジェクト」

32

災害時におけるリーダーの必要性

災害時は

- ・ 発生直後から状況が様々に変化する
- ・ 状況の変化に応じてニーズが変わる
- ・ 時間の経過と共に、公的機関・市民団体等の支援活動が始まり、様々な調整が必要になる

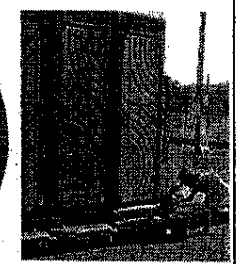
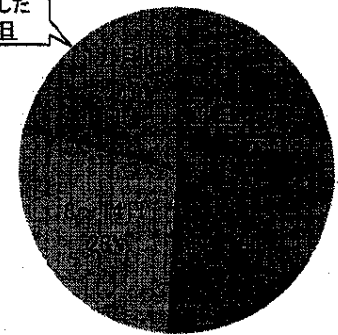
リーダーに協力する、
あるいはリーダーになる



無くて困ったもの

仮設トイレが被災地の避難所に行き渡るまでに要した日数
(東日本大震災)

最も日数を要した
自治体は65日



参考・出典：内閣府「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」、消防庁「チャレンジ！防災48」 34

東日本大震災 (宮城県気仙沼市職員の被災体験)

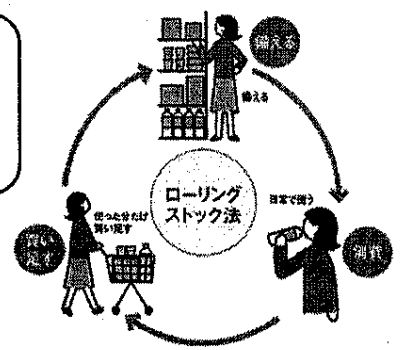
市民会館に避難してきた650人ぐらいの人への対応に当たった

- ・ 3月11日は1人乾パン5個。追加の食糧支援がいつ来るかわからない。
- ・ 2日目はおにぎり半分に乾パン。不足分は栄養補助食品で補った。夕方になり、市役所からやっとおにぎり500個が配達。
- ・ 3月17日(1週間後)頃からパン会社が毎日菓子パンを届けてくれた。ありがたかった。

参考：内閣府「一日前プロジェクト」

日常備蓄

ローリングストック法
食品を定期的に食べて、
食べた分を買いつけし備蓄して
いく方法



数日分生活するために必要な備蓄品を準備しておきましょう

災害に備えるために

「自助」の力を高める

= いのちを守り、暮らしをつなぐ備えを
実行する

「共助」の力を高める

= 人を知る

災害からいのちを守る基盤

「災害の備え」は
これで終了です
ぜひ、皆さんで、
今一度考えて、
実行していただ
きたいと思います

